

令和6年度 施設関係者評価報告書

学校法人 八正学園

めばえ幼稚園

1. 教育・保育目標

当園では「心身ともに健やかな育成のため乳児期から連続性のあるかかわりを通し豊かな人間性の醸成をはかるとともに生きる力を培う」教育・保育理念とし、6つの保育テーマにより、こころもからだも健やかな子どもに育つことを目指しています。

1. 生きものの生命（いのち）を大切にする子
2. 丈夫なからだで元気よくのびのびした子
3. 友だちと仲よく力を合わせて遊べる子
4. 自分のことは自分ででき、必要なときにはがまんのできる子
5. 思ったことがはっきり外に表現できる子
6. いろいろ創意工夫した事を楽しんで表現できる子

2. 自己評価結果

保育の質の向上のために、日々の保育を自己評価いたしました。

自己評価の観点は、「保育の在り方、幼児への対応」及び「保育教諭としての資質や能力・良識・適性」それぞれの項目について、以下の評価基準で採点し、全員の平均値を算出しております。

4. よくできている
3. まあまあできている
2. あまりできていない
1. まったくできていない

I 保育の計画性

1, 園の教育理念・教育方針の理解	
① 園の教育理念や教育方針を理解し共感している	3.4
② 園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合い、保護者に説明できる	2.9
③ 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	3.1
2, 幼稚園教育要領の理解	
① 幼稚園教育要領を理解し幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想定できる	2.9
② 幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている	2.3
3, 教育課程の編成	
① 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神をふまえ園の教育理念・教育方針に従い編成している	3.1
② 園の教育課程は社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	2.8
③ 園の教育課程を理解し、それをもとに保育の計画を立てている	2.8
④ 園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力しあって編成している	2.8
4, 指導計画の作成	
① 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している	2.8
② 園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	3.0
③ 指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	2.8
④ 長期の指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している	2.7
⑤ 短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている	2.9
⑥ 指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成している	2.7

⑦	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している	2.7
5, 環境の構成		
①	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている	2.7
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など 質・数量を考慮して環境構成をしている	2.8
③	幼児の活動がより豊かになるように、幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境を再構成している	2.7
④	幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	2.8
⑤	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	2.3
⑥	安全で清潔感のある環境を構成し、遊具・保育室等の安全点検を定期的に行っている	3.1
⑦	幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている	3.0
⑧	教師の願いや意図をもって環境構成をしている	2.8
6, 保育と計画の評価・反省		
①	自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	2.8
②	互いに保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている	2.3
③	評価・反省は観点を定めて行っている	2.9

II 保育の在り方・幼児への対応

1, 健康と安全への配慮		
①	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認している	3.5
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している	3.7
③	けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成やことばがけを行っている	3.4
④	万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている	3.7
⑤	園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察している	3.3
⑥	危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気づくことができるようにしている	3.3
⑦	クラスの中の水道付近の清掃や換気、採光、室温などに気をつけている	3.3
⑧	トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している	3.2
2, 幼児のみとりと理解		
①	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の内にある心の動きについても推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している	3.1
②	一人一人の幼児をよく観察し、見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	3.0
③	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	3.0
④	一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる	2.9
⑤	幼児のこれまでの姿、今の姿からこれからの活動のある程度予測することができる	3.0
⑥	幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	3.0
⑦	幼児だちがいま興味や関心をもっていることがわかる	3.0
⑧	幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている	3.3
⑨	幼児の理解のために保護者と話し合うことがある	2.9
⑩	幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している	2.9
⑪	幼児の姿を多面的にとらえることができる	3.0
3, 指導とかかわり		
(心のよりどころとして)		
①	幼児一人一人をありのままの姿を受け入れようとしている	3.3

②	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている	3.4
③	幼児の話をよく聞くようにしている	3.3
④	「一人一人」と「みんな」の関係を常に考えながらかかわっている	3.2
⑤	一人一人の幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	3.1
(遊び・活動の援助者として)		
①	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	2.8
②	幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	3.2
③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	3.0
④	幼児に合わせて同じように動いたり、同じ目線に立ってものを見つめたりしている	3.0
⑤	幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる	3.0
⑥	幼児からのアイデアをくみとって遊びを深めている	2.8
⑦	「先生のようにやってみたい」を幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている	3.1
⑧	教師らしい品位のある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	3.1
⑨	幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている (体罰を加えるようなことはしていない)	3.7
⑩	善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている	3.2
⑪	幼児一人一人のよさを認めるようにしている	3.4
⑫	幼児の年齢に応じたかかわり方で、わかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている	3.2
⑬	幼児が行き詰っている時や幼児同士のトラブルに対し、適切な援助をしている	3.1
⑭	幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	3.1
⑮	幼児の年齢や発達、個性や性格、特徴に応じたかかわり方をしている	3.1
(その他)		
①	幼児の家庭環境やこれまでの成育歴などを考慮してかかわっている	3.0
4, 保育者同士の協力・連携		
①	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている (また情報を共有している)	3.3
②	指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって対応するようにしている	3.1
③	他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようなさまざまな工夫や保育の形態を取り入れている	2.5
④	クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見の交換している	2.8
⑤	教職員全員がすべての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている	2.8

III 幼稚園教諭としての資質や能力・良識・適正

1, 専門家としての能力・良識・義務		
(専門家としての能力)		
①	幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	3.1
②	保護者に対し、幼児の事や自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	2.9
③	仕事の手順をよく考え、効率よく行っている	2.7
④	保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がけている	3.0
⑤	より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	3.4
⑥	幼児の性格や個性を把握するよう努めている	2.6
⑦	幼児が考え、感じていることがある程度予測できる	3.2
⑧	幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにしている	3.0
(良識とマナー)		
①	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	3.3
②	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している	3.6

③	園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	3.6
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ安全性にも気を付けている	3.4
⑤	子どもと保護者の顔や名前、性格などを覚えている	3.4
⑥	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	3.9
⑦	幼稚園の電話やコピー、紙や教材などを私用に使っていない	3.9
⑧	園の重要書類は持ち出していない	3.9
⑨	現金の管理は間違いのないよう行っている	3.8
(義務)		
①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	3.1
②	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	3.2
2, 組織の一員としての在り方		
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	3.0
②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	3.3
③	当番や役割による仕事を理解し確実にしている	3.1
④	上司の指示、命令には責任をもって実行している	3.5
⑤	会議のときは自分の意見や質問を前もって考えている	2.8
⑥	教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない	3.2
⑦	上司や先輩に対しては敬語を用いて話している	3.4
⑧	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	3.8
⑨	園に関することについてはみだりに、または不正確なままに他へ話したりしていない	3.9
3, 保育の楽しみ喜び		
①	幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである	3.8
②	幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	3.7
③	幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる	3.4
④	幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい	3.6
⑤	特に配慮を要する幼児が望ましい方向へと変容していく過程に喜びを感じる	3.6
4, まわりを感じとれる感性アンテナ		
①	幼児や教育・保育に関する情報を絶えずとらえようとしている	3.1
②	社会情勢や季節の変化など感じ取る感受性を大切にしている	3.1
③	幼稚園の仕事の他に、多様な趣味をもっている	2.8
④	自然に対する感性をもち、命の尊さを感じている	3.3
⑤	地域の事に関心がある	2.9

IV 保護者への対応

1, 情報の発信と受診		
①	一人一人の子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	2.8
②	個々の子どもの様子は直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている	3.1
③	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭でのありかたについて共通理解を得るよう努めている	2.9
④	保護者との情報交換を、必要に応じて記録している	2.9
⑤	いつでも保護者と個別懇談が行えるようにし、場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり、保護者と話し合ったりする	2.7
⑥	自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く	3.0
⑦	必要に応じて、ビデオ、写真、イラストなどさまざまな方法で分かりやすく伝える工夫をしている	2.6
2, 協力と支援		
①	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている	3.3

②	保護者からの要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの教育的な義務付けをはっきりとさせてからにしている	3.0
③	保護者への支援が可能な部分については園長の指導の下、教職員の合意の上で行っている	3.1
④	保護者の協力が必要な場合は、園長と協議し具体的な協力のあり方について、保護者と話し合っている	2.9
3, 守秘義務の遵守		
①	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	3.9
②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	3.9
③	秘密情報の管理については園の方針にしたがっている	3.9
④	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している	3.8
⑤	秘密情報の帰属は園または法人にあることを認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は園長の許可を取っている	3.7
⑥	秘密情報の書類、電子データのコピーは園長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	3.8
⑦	秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	3.8
4, 対応上のマナー・良識		
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	3.6
②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	3.3
③	電話は簡潔に要領よく、対話する事を心がけている	3.4
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	3.4
⑤	長期の欠席や入院等の場合は見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	3.1
⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差等によって区別、差別していない	3.8
5, クレームへの対処の仕方		
①	保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	3.6
②	クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処している	3.3

V 地域の自然や社会とのかかわり

1, 地域の自然・人々とのかかわり		
①	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	3.4
②	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	2.5
③	子どもの医療や保健に関する問題および地域の住民から受けた子育て相談の内容について、相談および連絡先を把握している	2.5
④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	3.0
⑤	中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している	3.1
2, 小学校との連携		
①	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることを理解している	3.4
②	小学校の教育内容について理解しようとしている	3.0
③	卒園した子どもの情報を得るように努めている	2.5
3, 地域への開放と支援		
①	地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解し、あり方について、教職員全体で話し合っている	2.5

VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

1, 研修・研究への意欲・態度		
-----------------	--	--

①	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	2.5
②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他幼稚園教諭等や主任、園長と話し合っている	2.6
2, 遊具・教材に関する専門性の向上		
①	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	3.2
②	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる	3.2
3, 今日の課題に関する専門性の向上		
①	子どもが取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている	3.3
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている	3.3
③	幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている	2.9
④	子どもたちが安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている	3.2
4, 自らを高めるための学習		
①	保育に専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	2.9

VII 地域における子育て支援

1, 自園の子育て支援事業の理解（全教職員）		
①	地域開放（親子幼稚園体験日・行事など）について職員間で共通理解の上取り組んでいる	2.8
②	自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやホームページ等でわかりやすく説明できる	2.7
③	親しみやすい雰囲気を心がけ、利用者に積極的に声をかけている	3.3

3. 施設関係者評価委員会による評価・意見

上記の自己評価の客観性等を高めることを目的に、施設関係者評価委員会を実施いたしました。出席委員は以下の通りです。

出席委員：保護者1名・法人職員1名・法人内園長1名
学識経験者1名・めばえ幼稚園職員1名

<評価委員会での意見>

- ・自己評価は、学期ごとの振り返りのための評価である。点数の低さは、簡単に評価せず、誠実に向き合っているということである。点数に左右されることなく、自分の問題意識を次へ向けて、取り組んでいく。
- ・保育の専門性だけでなく、人間的に充実していると保育にもあらわれてくる。充実した日常を過ごせるよう、休日にリフレッシュをしたり、趣味等に時間を費やしたりすることも大切なことである。心のときめきを感じながら、「保育が楽しい」と思えることが一番である。それが子どもの充実感にもつながっていく。
- ・子どもたちに何を学ばせたいか、そのねらいをしっかりとって保育に取り組んでいく。
- ・保育を見せ合うことが難しい場合には、動画を撮って見返すということもできる。

上記のような意見をいただきましたので、今後の運営・保育にいかしていきたいと考えております。本件について、不明な点等ありましたら、園（岡田）までご連絡ください。